

2024年6月30日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒364番 (SK 姉)

『主よわが魂を探り』

聖書⇒イザヤ書 40章 28~31節 (MM 姉)

『あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。

主は、とこしえにいます神／

地の果てに及ぶすべてのものの造り主。

倦むことなく、疲れることなく／

その英知は究めがたい。

疲れた者に力を与え／

勢いを失っている者に大きな力を与えられる。

若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが

主に望みをおく人は新たな力を得／

鷲のように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。』

礼拝讃美歌⇒316番 (旧 88 番)

『いつかは知らねど』

聖書⇒詩編 128編 1~4節 (SK 兄)

『いかに幸いなことか／

主を畏れ、主の道に歩む人よ。

あなたの手が労して得たものはすべて／

あなたの食べ物となる。あなたはいかに幸いなことか／

いかに恵まれていることか。

妻は家の奥にいて、豊かな房をつけるぶどうの木。

食卓を囲む子らは、オリーブの若木。

見よ、主を畏れる人はこのように祝福される。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 15 章 13 節

『希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、  
聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。』

(祈)

聖書⇒ヨハネによる福音書 19 章 28~29 節 (NH 兄)

『この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の  
言葉が実現した。そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含  
ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。』

聖書⇒詩編 22 編 16 節

『口は渴いて素焼きのかけらとなり／  
舌は上顎にはり付く。  
あなたはわたしを塵と死の中に打ち捨てられる。』

聖書⇒詩編 69 編 22 節

『人はわたしに苦いものを食べさせようとし／  
渴くわたしに酔を飲ませようとしませ。』

聖書⇒詩編 42 編 2~3 節

『涸れた谷に鹿が水を求めるように／  
神よ、わたしの魂はあなたを求める。  
神に、命の神に、わたしの魂は渴く。  
いつ御前に出て／  
神の御顔を仰ぐことができるのか。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 4 章 13~15 節

『イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決  
して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主  
よ、渴くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。』

礼拝讃美歌⇒503 番

『天つ真清水』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6章 53~58節

『イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。』』

(式)

礼拝讃美歌⇒155番 (旧 208番)

『神の小羊は』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 5章 43~48節 (KH 兄)

『「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるだろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるだろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が**完全**であられるように、あなたがたも**完全な者**となちなさい。』』

聖書⇒ヨハネの手紙一 4章 7~11節

『愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。』』

聖書⇒コヘレトの言葉 3章 1~2 節 (ES 姉)

『何事にも時があり／

天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時／

植える時、植えたものを抜く時…』

礼拝讃美歌⇒57 番 (旧 55 番) (KH 兄)

『類いもあらじな』

《建徳要旨》